授業科目	人生と哲学					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	岡野　亜希子						
授業概要	この科目では、哲学の一分野であり、人間の生き方・行為を扱う学問でもある倫理学に焦点を当てながら、現代の社会とくに 20 世紀後半以降の医療技術の進歩とそれに伴い新たに生じた特有の倫理的問題を取り上げて，「私たちはどのように判断し行為し，生きていくべきだろうか」，「よりよい生き方やよりよい社会とはどのようなものか」などを考えていきます。講義で直接取り上げるのは生命倫理学ですが，これは医療の分野に限らず現在のさまざまな社会問題，とりわけ福祉や教育，法律など私たちの生活に大きくかかわっています。毎回具体的な例をとりあげて検討しながら，これらの問題を自分自身の問題として考えることができるようになるための、基礎的知識の理解も目指していきます。 なお講義の進め方、課題の内容や提出方法、成績評価の方法については、初回で説明します。事前にシラバスに目を通しておいてください。						
授業形態	講義			授業方法	資料の共有、課題、重要な連絡などは classroom や Google フォームを通じて行います。		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	・安楽死、脳死、出生前診断をめぐってどのような問題が生じているのかを知る。 ・安楽死、脳死、出生前診断をめぐる問題を考えるための基本的な知識を理解する。 ・生命倫理をめぐる問題を知ることを通じて，人間と科学技術・社会との関係について考え，それを客観的な言葉で表現することができる。
理想的レベル	・安楽死、脳死、出生前診断をめぐる問題を考えるための基本的な知識をふまえて、現在どのような問題が生じているのか考えることができるようになる。 ・安楽死、脳死、出生前診断をめぐるさまざまなメディアの情報を、批判的に検討する視点を身につける。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	50%	
小テスト		
レポート	50%	
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NU10410J WE10410J NT10410J EN10410J TO10410J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
毎回内容に応じた課題(小レポート)を出します。講義内で紹介した参考図書などを手掛かりに課題に取り組んでください。	4

授業計画	
第 1 回	イントロダクション： 授業内容、進行、成績などについて
第 2 回	安楽死をめぐる問題： SOL と QOL，安楽死とは何か，安楽死の何が問題化，「東海大学安楽死事件」を考える」
第 3 回	インフォームド･コンセント(1)：優先すべきものは生命? インフォームド･コンセントとは何か，IC 登場の背景，人体実験をめぐる問題，治療拒否行為について考える
第 4 回	インフォームド･コンセント(2)：強制が必要な場合はあるか? パターナリズムとは何か，自己決定権の保障，パターナリズムの具体的問題
第 5 回	移植医療をめぐる問題(1)：ドナーになるのは偉い? 移植とはどのような医療か，日本におけるルール，倫理的な問題
第 6 回	移植医療をめぐる問題(2)：「脳死」は人の死か? 「脳死」問題の登場，「脳死」の判定基準，法の策定，残された問題
第 7 回	移植医療をめぐる問題(3)：「臓器移植法」とその問題 97 年法が残した問題，改正の論点，議論は公平に進んでいるだろうか
第 8 回	中間レポートなど 前半の振り返りを行う。また前半の内容について確認のための課題に取り組む。
第 9 回	生殖医療をめぐる問題(1)：コウノトリか科学技術か 生殖技術の現在，法的・倫理的問題，問題への対応，現在の状況と問題点
第 10 回	生殖医療をめぐる問題(2)：子どもの権利と日本の現状 「ベビーM 事件」，生殖技術をめぐる問題への対応，日本における状況
第 11 回	生殖医療をめぐる問題(3)：「お父さんに会いたい」 子どもの権利について考える
第 12 回	人工妊娠中絶をめぐる問題：生命と選択権をめぐって 日本における状況，キリスト教圏における状況，出生前診断と選択的中絶
第 13 回	生命倫理の問題を具体的に考える(1) 映像資料などから具体的状況を想定して考える
第 14 回	生命倫理の問題を具体的に考える(2) 映像資料などから具体的状況を想定して考える
第 15 回	これまでのまとめと質問への応答
テキスト	指定テキストはありません。資料を共有しつつ授業を進めますので、インターネットにつながる PC やタブレット等の持参を推奨します。基本的に印刷物は配布しません。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	授業中に適宜紹介します。
課題に対するフィ	小レポートの一部を匿名で次の講義で紹介します。自分とは別の見方や、自分では気がつかなかった視点からの考察に触れて、自分の考えをより一層深めてください。

ードバックの方法	
学生へのメッセージ・コメント	とくにありません。事前にシラバスに目を通しておいてください。 講義ではテーマに関連する図書などをたくさん紹介するつもりなので、講義内容に興味をもったらぜひ読んでみてください。